

香川県・現代アートで再生した「直島」

～世界が注目する島に～

日本不動産研究所 高松支所
不動産鑑定士 富永 和志

直島は、香川県香川郡直島町に属し、高松市の北方約13kmに位置する瀬戸内海の離島で、高松港からの所要時間はフェリーで約1時間、岡山・宇野港からは約20分である。

直島町全体の人口は約3,200人で、年々若干減少しているものの、減少率は縮小傾向にある。直島は、大正6(1917)年に島の近代化政策として三菱合資会社(現三菱マテリアル)の金属製錬所を誘致し、企業城下町として発展してきた。しかし、1970年代の金属製錬事業そのものの低迷により合理化が進んだため、従業員は削減され、島の人口は減少し続けた。

【アートプロジェクト】

このような状況の中、直島は現代アートによる地域再生、活性化を目指した。直島と現代アートを結びつけたのがベネッセホールディングスで、平成元年(1989年)に直島国際キャンプ場の開設を始めとして、平成4('92)年にベネッセハウスの建設、平成9('97)年より古民家を改修し空間そのものを作品化した「家プロジェクト」を開始する等の活動をしてきた。

家プロジェクトは、本村地区に町民も参加した第1弾の作品となる「角屋」が制作・公開された。続いて「南寺」「きんざ」「護王神社」「石橋」「碁会所」「はいしゃ」の7軒が制作・公開された。また、宮浦港など島の至る所で、現代アートの作品が展示されている。

更に、平成16('04)年には、建物のほとんどが地中に埋設され、周囲の景観と一体となった地中美術館が開館し、平成22('10)年には、李禹煥美術館がオープンした。これらの取組の結果、平成21('09)年度の観光客等入込数は約36万人、平成22('10)年度は、瀬戸内国際芸術祭の効果で約63万7千人、平成23('11)年度は約40万5千人となった。平成15('03)年までは年間5万人程度で推移していたが、平成16('04)年に地中美術館がオープンしてから来島者は急増した。

【瀬戸内国際芸術祭 2013 開催】

このような直島の取組を瀬戸内に広げ展開するアートプロジェクトが香川県主催により3年前に開催された「瀬戸内国際芸術祭 2010」で、瀬戸内海に浮かぶ7つの島々と高松港周辺を会場に開催された。

その第2回目となる「瀬戸内国際芸術祭 2013」が3月20日から開催される。前回の第1回目は、平成22(’10)年7月19日から105日間開催され、来島総数約93万人という盛況を博した。

今回は、前回の開催エリアの直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島の7つの島と高松港周辺のほか、新たに中西讃の島々や宇野港周辺が加わり、期間も四季の特徴を生かし、春・夏・秋の3シーズンに分け、会期総数108日間にわたり開催される。

今回の芸術祭により、直島の地域再生が各島々に広がり、活性化に繋がるものと期待される。